

2024年 北米大陸最高峰 デナリ(6,194m) 公募登山隊 募集要項



デナリ山頂

企画・運営



株式会社アドベンチャーガイドズ

102-0072

東京都千代田区飯田橋2-9-6 東西館ビル本館43号室

Tel: 03-5215-2155 Fax: 03-3288-3211

info@adventure-guides.co.jp

2024年「デナリ公募登山隊」

この登山隊は「北米大陸最高峰 デナリ峰(6,194m)」
の登頂を目的とした公募形式の登山隊です。

北米大陸最高峰のデナリは、アラスカ州に位置するため極地に近く、標高も6000mを越えるため、夏でも気温が -20°C 以下になることもある過酷な自然環境です。また、登山エリアが氷河上のため、一般の登山者には難しく、体力・技術・豊富な経験等を持ち合わせた、登山のエキスパートのみに許される領域です。

しかしながら「海外遠征経験の豊富な山岳ガイドのサポート」により、一般の登山者にも登頂が可能なタクティクスを作ることが出来ます。この隊は、参加者自身の技量だけでは登頂が難しい一般の登山愛好家を中心に、山岳ガイドが登頂のために必要な技術、経験の足りない部分をサポートしながら登頂を目指す公募隊です。



「デナリ」

北米大陸最高峰、標高6,194m、アラスカ州に位置する。2015年8月まではマッキンリーと呼ばれていましたが、現在は元々の先住民の呼称であったデナリが正式名称となっています。

周囲を含め国立公園に指定されており、アラスカの大自然が残っているエリアです。大地にどっしり腰を落ち着けて聳え立つ姿はあまりにも雄大で印象的な姿です。ベースとなる町はタルキートナで、ここからベースキャンプまでのアプローチに雪上セスナを利用します。登山ルートは一貫して雪上を歩く登山になり、登山技術としては、ピッケル・アイゼンワークの基本ができれば問題ないレベルです。最大のポイントは -20°C 近くまで下がることもある気温と高所対策です。

「日本人が企画・運営する公募登山隊のメリット」

現在、アメリカの会社を中心に世界各国でデナリ公募登山隊が募集されています。この公募登山隊は国際隊で、参加者の中心は欧米諸国の登山者となり、隊の公用語は英語です。近年、日本人にもこの欧米の公募登山隊に参加する方を見受けます。

しかし、言葉や文化の違い、そして体格差による基礎体力の違いなどから、うまくこれらの登山隊に馴染む事ができず良い結果が得られない方もいるようです。AGの公募登山隊は、このような問題がないよう、食事、ペース配分等、日本人参加者に合わせるのは無論のこと、登山成功の大きなポイントであるストレス解消や登山意欲の維持がうまくできるように日本語できめ細かくサポートします。隊員も自分の要望を細かいニュアンスまで伝えることができるので、ストレスがたまりづらい快適な環境での登山活動になります。



「公募登山隊参加費用」

* 公募登山隊は6名参加の場合。

5/16(木)～6/6(木) 22日間 ￥3,180,000.

「公募登山隊参加費用に含まれるもの」

登山申請手続、国立公園入山料、現地移動用(雪上セスナ タルキートナ～ベースキャンプ)、現地キャンプ費用
登山中の食事、現地山岳ガイド同行費用、日本人スタッフ登山同行費用、テント・登攀用具等共同装備費用

「参加費用に含まれないもの」(主なものを例示します)

現地ガイドへのチップ(登頂成功した場合US\$200前後)、個人的に利用した衛星電話等通信費、
自由行動中の費用、早く下山した場合や天候等で下山が遅れるなど予定通り行動出来なかった場合に新たに発生するホテル・航空券の費用、規定以上の個人装備運搬費用、その他個人的諸経費

上記公募登山隊に参加するためのツアー

5/15(水)～6/9(日) 26日間 旅行費用 ￥452,000.

旅行企画実施 株式会社アドベンチャーガイズ 観光庁長官登録旅行業1713号

「旅行費用に含まれるもの」

東京～アンカレッジ間の往復航空券、アンカレッジ・タルキートナのホテル宿泊費用(日程表に
明記された3泊分)、アンカレッジ～タルキートナ移動費用、日本人スタッフ同行費用

* 別途お渡しする、旅行条件書、旅行約款を必ずご確認ください。

公募登山隊＋ツアー合計参加費用 ￥3,632,000.

* 上記は2023年11月1日の諸条件で設定しております。
急激な為替レートの変動などで、諸条件が変更になる場合がございます。予めご了承ください。

ガイド登山の入山枠の関係で、入山申請時に調整が行われ、出発日が変更になる場合がございます。

「今回の公募登山隊の運営」

国立公園内に位置するデナリは、ライセンスを持たない山岳ガイドが営利目的で活動することができないエリアです。

日本人では、ライセンスを有するものが一人もいないため、一般的には日本ではツアーが設定されておりません。

AG公募登山隊は、ガイドライセンスを有する「アラスカ・マウンテニアリング・スクール」主催の公募登山隊を特別にAG隊としてアレンジする形で運営いたします。

日本の山岳ガイドライセンスを有するスタッフが同行しサポートすると共に、事前に日本人の特徴や志向を現地スタッフと話し合い、万全のサポート体制が取れるよう手配しております。

なお、基本的にはAG独自で登山活動を行いますが、フライトやベースキャンプの施設等、キャパシティに十分な余裕が無いため制約が多く、他の公募登山隊のメンバーと同一行動を取る場合もございます。予めご理解ください。

この場合には同行する日本人ツアーリーダーが、他の公募登山隊と交渉しお互いの行動が上手く行くようサポート致します。



マッキンリー山頂



荷揚げイメージ

《デナリ公募登山隊 26日間》

NO	月 日	都 市 名	時間間	交通機関	摘 要	食事	
1	05月15日 (水)	東 京 発 アメリカ内都市 アンカレッジ着 タルキートナ	午 後 午 前 午 後 夕 刻	航空機 航空機 送迎車	空路、アメリカの都市を経由してアンカレッジへ。到着後、迎いの車でタルキートナへ向かいます。 【タルキートナ泊】	機食 機食	
2	05月16日 (木)	タルキートナ	滞 在		タルキートナで登山の準備です。 【タルキートナ泊】		
3 5 22	05月17日 (金) 5 06月05日 (水)	デ ナ リ 登 山			タルキートナ→(セスナ)→BC(2,227m) フライト予備日 BC→C1(荷上げ)→BC BC→C1(2,410m) C1→C2(荷上げ)→C1 C1→C2(3,050m) C2→C3(荷上げ)→C2 C2→C3(3,508m) C3→C4(荷上げ)→C3 C3→C4(4,331m) C4 C4→C5(荷上げ)→C4 C4 C4→C5(5,246m) C5 C5→山頂(6,194m)→C4 C4→C2 C2→BC 登山調整日 登山調整日		
23	06月06日 (木)	B C タルキートナ アンカレッジ	午 前 午 後 夜	セスナ 送迎車	セスナでBCからタルキートナへ戻ります。その後、送迎車でアンカレッジへ移動します。【アンカレッジ泊】		
24	06月07日 (金)	アンカレッジ発 アメリカ内都市	午 後 夜	航空機	送迎車で空港へ移動し、航空機でアメリカの都市へ。空港最寄りホテルで宿泊します。【アメリカ内都市泊】	機食	
25	06月08日 (土)	アメリカ内都市	午 前	航空機	航空機で帰国の途につきます。 【機中泊】	機食	
26	06月09日 (日)	東 京 着	午 後		東京到着後、解散です。	機食	

※天候等の事由により日程、宿泊先が予告なく変更される場合があります。予めご了承ください。

※航空便の都合により、日程が前後する場合がございます。

注意事項（お申込み前に必ずお読み下さい）

1. 旅行主催と公募登山隊主催

この企画は日本～タルキートナ間の移動とタルキートナ滞在部分のみを(株)アドベンチャーガイズ(観光庁長官登録旅行業1713号)が主催する旅行に参加し、タルキートナ滞在時にアラスカマウンテンアリングスクール社(アメリカ)が主催し(株)アドベンチャーガイズがサポートする公募登山隊に参加して頂く形として運営します。

2. 現地公募登山隊の運営に関して

弊社提携のアラスカマウンテンアリングスクール(アメリカ)のオペレーションのもと、公募登山隊を運営します。天候や地域事情で、現地までのフライト、ベースキャンプの施設等他の登山隊と共有する場合がございます。この場合でも返金等はございませんので、予めご了承ください。

3. 参加の技術、体力レベル

参加に際しての標準的な技術、体力レベルの目安は下記のようになります。

- * 基本的なアイゼン・ピッケルワークができる。
- * 雪上を含む基本的なテント生活経験がある。
- * 国内で1日標高差1000m以上を登り降りができる
- * 3泊4日以上長期山行の経験がある。
- * スノーシューとソリを使い荷上げができる。
- * ソリを使い20kg前後の荷物を荷上げできる。
- * 基礎的な高所順応の知識があり、5000m以上の高所経験がある。

4. 天候等のための日程変更について

この地方は極地に近いため天候が安定しないことがあり、雪上セснаなど予定が組みにくい土地がらす。日程には余裕を持ってありますが、悪天候のためタルキートナへの到着が遅れることもあります。また、順調に登山が行われた場合は早く戻ってくる可能性もあります。このため、この公募登山隊でのタルキートナのホテルは日程表の日程のみ手配することとし、日程変更のために発生したホテル費用は参加者の負担となり、現地でお支払頂きます。また、予め帰国変更可能な航空券を手配しておりますが、長期の日程変更に伴い変更可能な有効期限が切れてしまい新たな航空券の手配が発生した場合も参加者の負担となります。予めご了承ください。

5. 日本人ツアーリーダー・登山ガイドに関して

日本人ツアーリーダーが公募登山隊の進行を管理します。ツアーリーダーには海外遠征の経験豊富な者を選任します。また、現地山岳ガイドとしてデナリでの登山経験が豊富な山岳ガイドを選任し、日本人ツアーリーダーと共に登山活動をサポートします。現地ガイドは原則的に日本語は話せませんので英語での会話となりますが、登山中の重要な事項は日本人ツアーリーダーが通訳しますので言葉の不安はほとんどございません。

6. 登山中の判断に関して

ルート、日程調整、パーティー編成、登山中止等、登山中の判断は現地山岳ガイド、日本人ツアーリーダーが参加者の安全を第一に考え行ないます。この決定には必ず従って頂きます。

7. 登山中止に関して

日本人ツアーリーダーと現地山岳ガイドは参加者の安全を第一に考えながら登山活動を行います。天候、ルート状況、参加者の体調によってはやむを得ず登山活動の全部または一部を中止する場合があります。また、これらの決定は現地山岳ガイドと日本人ツアーリーダーが行い、いかなる事由があろうと必ず従って頂きます。また登山が中止された場合いかなる事由でも参加費用の変更、返金はありませんので、予めご了承ください。

以下に登山を中止する事由を例示します。

- * 悪天候で登山が不可能な場合。
- * ルートの状況により登山が不可能な場合。
- * 天候、天災、政治的事由等で出発前に登山が困難と判断された場合。
- * 交通機関、宿泊施設、装備運搬等で支障がでた場合。
- * 参加者の登山技術が未熟で登山活動の継続が出来ないと判断された場合(安全に登山を継続する事ができないと判断された時点で下山を開始します。)
- * 登高ペースが遅い場合
(予定時刻までに余裕をもって安全地帯に下山するにはペースが遅いと判断された段階で下山を開始します。)
- * 登山装備に支障があった場合。
(装備に支障があった場合、その参加者の登山を中止します。装備表を良くご覧になり準備して下さい。新しいアイゼン等は事前に寒いところで実際に装着して装着可能か確認して下さい。装備について不明な点がありましたらお問い合わせ下さい。また、現地では個人装備の貸与は一切致しませんので、予めご了承ください。)

8. キャンプに関して

上部キャンプへの装備の荷上げ、キャンプの設営は原則的に隊員自身が行います。(ソリ、スノーシュー等を使って荷上げします。)日本人リーダーと現地ガイドは円滑に荷上げ、設営が上手できるようにサポートします。

9. 緊急時の対策

この登山隊で訪れる地域は、一般的には秘境、辺境と呼ばれる地域です。可能な限り日本人スタッフと現地山岳ガイド、現地スタッフが無線機等での連絡方法を確保し、緊急時に備えますが物資設備、輸送機関に制約があり必ずしも十分な救助体制が確立できない場合もございます。参加者はその点を十分に理解した上、無理のない行動、安全な登山を心がけて下さい。また、隊員は主催者が指定する内容の山岳保険に加入することが公募登山隊への参加条件となりますので、予めご了承下さい。

10. 申込み

申込書と申込金を添えてお申込み下さい。
申込金: ¥500,000.

11. 提出書類

下記の書類を出発75日前までにご提出下さい

1. 山岳保険申込書(同等の保険に加入済みの場合はその証券等のコピー)
2. 山歴書
3. 参加に際する約定書
4. 健康診断書
5. その他、渡航手続きの書類

12. 参加取消

下記の参加取消料をお支払い頂く事によって参加を取り消すことができます。

【旅行参加費用】

旅行出発日の30日前～3日前	旅行費用の20%
旅行出発日の前々日～当日	旅行費用の50%
無連絡不参加、出発後	旅行費用の100%

【公募登山隊参加費用】

申込日～公募隊開始日126日前	参加費用の30%
出発日125日前以降	参加費用の100%

* 公募登山隊主催会社にへ125日前に全額支払ます。

デナリ 参考装備表

【靴・足元】

NO	品名	数量	チェック	RNT	備考
1	エクスペディションブーツ	1足	○	\$	高所登山用の二重構造のエクスペディションブーツ(ダブルブーツ)。インナーブーツが完全に取外れるタイプのもの。高所では足もむくむため、そのことも考慮に入れてサイズを選ぶこと。 例)スポルティバ:オリンポス スカルパ:ファントム8000 ザンバラン:エベレストEVO、デナリEVO ミレー:エベレスト スポルティバ:G2 など
2	オーバーブーツ	1足	○	\$	オーバーブーツ体型のエクスペディションブーツの場合は不要。 例)FORTY BELOW:K2、エベレスト ヘリテッジ:エクスペディションオーバーシューズ モンベル:オーバーシューズ など
3	運動靴又は普段履き	1足	○		出発時、機内、都市滞在中に使用。
4	サンダル	1足	△		都市滞在中にあるとより快適です。ビーチサンダルではなく、つま先の隠れるもの。 例)クロックス キーン など
5	クランポン	1組	○	\$	アイゼン。12本爪のフルアイゼン。 着脱が簡単なワンタッチ式でエクスペディションブーツにフィットしたもの。オーバーブーツを使用する場合は、オーバーブーツの上から装着可能なストラップ式のもの。 ※クランポンケースも忘れずにお持ち下さい。 例)ブラックダイヤモンド:Serac Crampons CAMP:アルピニスト など
6	ゲイター	1組	○	\$	スパッツ。厳冬期用の耐久性があるもの。 ※オーバーブーツ体型のエクスペディションブーツの場合は不要。 例)アウトドアリサーチ:エクスペディション クロコダイル パイネ:エクスペディションスパッツ ヘリテッジ:サガルマータロングスパッツ モンベル:アルパインスパッツ など
7	テントシューズ	1足	○		ロングタイプ。厳冬期用で耐久性があるもの。 例)ヘリテッジ:ダウンテントシューズ モンベル:ダウンフットウォーマー FORTY BELOW: Camp Booties など
8	スノーシュー	1組	○	\$	自分の持つザックの重さに適したもの。 ※現地レンタル可能 例)MSR:Lightning Ascent Snowshoes など
9	厚手靴下	3組	○		エクスペディション用の厚手のウールや合成繊維のパイル織の靴下。古くなるとクッション性が失われるため、定期的に新しいものを購入することも重要です。
10	薄手靴下	3組	○		汗対策として、薄手のウール、キャブリーンの靴下。 厚手のエクスペディション用靴下をできるだけ清潔で乾燥した状態を保つために、重ね履きすることで、厚手の靴下を履き替える頻度を減らします。 ※薄手靴下と厚手靴下の間に更にもう一層、ネオプレン素材やナイロン素材のソックスでVBL(Vapor Barrier Liners ベイパーバリアライナーズ = 防湿気密層)を設けるのもおすすめです。

【ウェア・衣類】

NO	品名	数量	チェック	RNT	備考
1	下着	3組	○		2~3セット。素材は合成繊維などで、吸湿発散性、速乾性に優れているもの。 例)パタゴニア アイスプレーカー ワコール など
2	薄手のベースレイヤー(上下)	2組	○		上下2セット。素材はキャブリーンのや合成繊維、またはウール。綿製品は不可。 例)パタゴニア:キャブリーン ライトウエイト ミレー:ドライナミックメッシュ など
3	厚手のベースレイヤー(上下)	1組	○		上下1セット。素材はキャブリーンのや合成繊維、またはウール。綿製品は不可。 寒いときに薄手のベースレイヤーの上に重ねて切れるもの。 首元はクルーネックではなく、温度調節ができるハーフジッパーがおすすめです。 例)パタゴニア:キャブリーン ミッドウエイト、サーマルウエイト など
4	ミッドレイヤー(上下)	1組	○		ウール、ポリエステルなどの中間着。フード付きのものはバラクラバの代わりにもあり便利。中厚程度のフリースジャケット。 例)パタゴニア:R2 など
5	インサレーションレイヤー(上下)	1組	○		中間着として使用できるインナーダウンジャケット。ウィンドストッパーなどのソフトシェルパンツ。 例)パタゴニア:ナノバフ、ナノエア、ウィンドシールド など

6	ハードシェル(上下)	1組	○		オールシーズン用のジャケットとパンツ。“GORE-TEX®”に代表される防水透湿素材を使用した3レイヤーのものが望ましい。雨具兼用。パンツはフルジップ仕様のものが便利。
7	アウターダウンジャケット & ダウンパンツ	1組	○	\$	アタック時に着用する厚手のダウンジャケット。シェルの上から着用できる大きさのものが望ましい。パンツはフルサイドジッパーが望ましい。インナーパンツタイプでも可。 例)マウンテンハードウェア:アブソルートゼロパーカ マウンテンエキップメント:クラウドデュベ など
8	ライナーグローブ	適数	○		雪山用グローブの内側で使用する薄地のメリノウール素材のグローブや、晴天無風時の行動中に使用する薄手のグローブ。厚さを変えて複数あると便利。
9	雪山用防寒グローブ	1組	○		防水性、保温性に優れた5本指、3本指の雪山用、スキー用グローブ。
10	遠征用防寒ミトン	1組	○	\$	ダウンまたは化学繊維の中綿が入った、耐水性、保温性に優れた高所登山用のもの。 例)ブラックダイヤモンド:アブソルートミット マウンテンハードウェア:アブソルートゼロミット ヘリテージ:エクスペディションダウンミトン など

【 頭・目元など 】

NO	品名	数量	チェック	RNT	備考
1	サングラス	2個	○		破損や紛失に備え、2つお持ち下さい。 顔の大きさにあった横風、横からの紫外線にも強いもの。サイドカバー、首からかける紐、鼻のカバーが付いているものがおすすめ。
2	日焼け止め鼻ガード	1個	○		サングラス使用時に鼻が日焼けするのを防ぐため。(ガムテープ等で自作も可能) 例)Beko Xtreme Gear:Nose Guards NozKon:Nose Guards など
3	ゴーグル	1個	○		悪天候時に仕様。最低限ダブルレンズが必須。 スワズスのファン付きゴーグルや、面発熱レンズゴーグルなどがおすすめです。
4	ヘッドランプ	1個	○		※遠征時期により必要になります。予備電池も忘れずにお持ちください。
5	ヘルメット	1個	○	\$	山岳登攀用の軽量なヘルメット。 バラクラバやニット帽など防寒具を装着した状態でも使用できる大きさのもの。
6	日除け用ハット	1個	○		日除け用のつばの付いたハットやキャップ。
7	ニットキャップ	適数	○		低温時に使用する耳まで隠れるもの。高所帽も可能。
8	Buff、バンダナ	適数	○		日焼け予防にHigh UV Protection効果を備えたものもおすすめ。 呼吸し易いように、鼻と口の箇所に切れ目を入れて使用するものもおすすめ。
9	バラクラバ	1個	○		目出帽。薄手のヘルメット着用が可能なもの。Buffを複数枚使用して代用も可能。

【 登山用具 】

NO	品名	数量	チェック	RNT	備考
1	アイスアックス	1個	○	\$	軽量で長すぎないピッケル。グリップがゴムのは重く、雪に突き刺しづらいので避ける。目安としては、身長170cm以下の人は60cm、170~185cmの人は65~70cm、185cm以上の人は75cmぐらいのもの。 ※高所ではリーシュを付けることが望ましい。 例)CAMP:コルサナノテク PETZL:サミット など
2	ハーネス	1個	○	\$	着脱が容易なエクスペディション用のシートハーネス。 ウェア、装備を着けた状態で体にフィットし、太ももまわりの太さに合わせて、レッグループが調節でき、レッグループも簡単に着脱できるタイプのもの。 例)CAMP:ALPマウンテン PETZL:AL TITUDE ブラックダイヤモンド:Couloir など
3	アッセンダー	1個	○	\$	右か左、どちらか1つ。PETZLのアッセンションがおすすめ。実際の利用では、同じくPETZLのスベルジカ、ヴェルティゴ・ワイヤーロック(バネ式のオートロックカラビナ)とセットで使用することをお勧めします。
4	カラビナ	10個	○		グローブ着用時でも操作しやすい、コンパクトかつ軽量なD型カラビナx10個。

5	安全環付きカラビナ	4個	○		開口幅の広い大型のHMS型ロックンカラビナx2個。 小型のHMS型ロックンカラビナx2個。
6	スリング	適数	△	RNT	★安全管理の観点から、各長さ、使用する箇所を色分けし、チーム全員が統一した色分けで使用するため、必要となるスリングは現地で全て配布されます。 ※個人的に使用する用途がある物があればご持参下さい。
7	トレッキングポール	1組	○	\$	登山用ストック。3段折りたたみ式、または、伸縮式のもの。 ※スノーバケットも必要です。 例)LEKI:マイクロバリオカーボン AS、マカルーライト など
8	アバランチ・ビーコン	1個	○	\$	雪崩対策に必要。電池の残量を必ず確認しておいてください。 ※不要となる場合もございますが、安全管理のためご持参下さい。

【 キャンプ用具、その他 】

NO	品名	数量	チェック	RNT	備考
1	大型バックパック (85~100L程度)	1個	○	\$	不要なファスナーや、それに類するものが極力少なく、シンプルで軽量なもの。
2	大型ダッフルバッグ (100L程度)	1個	○	RNT	登山中は個人装備の他、隊共同装備も各隊員で分担してバッグに入れ、ソリに載せて運びます。 ※モンベル:エクスペディションダッフルは、4本のコンプレッションベルトで圧縮が可能な超大型ダッフルバッグ。現地で使用するソリのサイズにも丁度マッチし、背丈も高くなりすぎず、安定感もあるため、ベストです。
3	スリーピングバッグ	1個	○	\$	シュラフ。マイナス40℃まで耐えられる極地エクスペディション用寝袋。コンプレッションバッグがあるとコンパクトになります。就寝時には、凍らせたくないお湯を入れたナルゲンボトルや、乾かしたいインナー類、靴下なども入れ込むため、あまりびったりしたサイズだと窮屈になります。 例)Western Mountaineering:Bison GWS Expedition Valandré:THOR NEO など
4	スリーピングバッグカバー	1個	○		“GORE-TEX®”に代表される防水透湿素材のもの。大きさに余裕のあるもの。
5	スリーピングパッド (エアーマットレス)	1個	○		フルサイズの自身の身長分は完全にカバーできる大きさのもの。保温性のある軽量なもの。 調節バルブと修理用キットも。ウレタンマットレスと重ねて使用。 例)THERM A REST:NeoAir XTherm, ProLite Apex モンベル など
6	スリーピングパッド (ウレタンマットレス)	1個	○	\$	身長をカバーする長さのもの。サーマレストなど。エアーマットレスと重ねて使用。 例)THERM A REST:Z Lite Sol, RidgeRest SOLitex モンベル など
7	小型スタッフバッグ	2個	○		2個。小物類の収納用に。
8	ランチ用スタッフバッグ	3個	○	\$	3個。25cm x 40cmぐらいの大きさのものを3個。タルキートナでの登山準備の際に、1個あたりに7食分の昼食(行動食)をそれぞれ各自でバックします。
9	ギア用スタッフバッグ	1個	○	\$	1個。40cm x 60cmぐらいの大きさのもの。テント場にて、自身のギア類を全てまとめて収納するために。
10	荷物用スタッフバッグ	1個	○	\$	1個。40cm x 60cmぐらいの大きさのもの。テント内にて、自身の荷物を全てまとめて収納するために。
11	コンプレッションバッグ	適数	△		持参されるシュラフや衣類などをコンパクトにまとめるためのコンプレッションバッグ(圧縮ベルトで小さくできるバッグ)。
12	ゴミ袋	4枚	○		120ℓ x 4枚。ザックの中でシュラフや衣類等の装備を乾燥した状態で保つため。ザックの内側全体をカバーするくらい大きいものを。丈夫なビニール製がよい。
13	マグカップ	1個	○		500ccぐらいの大きさのプラスチック製(またはステンレスの軽量のもの)で保温性があること。パチンとはめるフタが付いていると、中のものが冷めにくく、テント生活でもこぼしにくい。
14	ボウル	1個	○		プラスチック製で深さのある、保温性に優れたもの。容量は400~600ccぐらいでフタ付き。
15	スプーン	1個	○		プラスチック製。品質がよく、軽量で丈夫なもの。携帯用お箸もあわせてであると便利。
16	水筒(ナルゲンボトル)	3個	○		水用の水筒。少なくとも合計して2ℓの容量が必要。1ℓのものx2個、500mlの口が広いタイプのものx1個、合計3個持っているのがおすすめ。保温ケースもあわせてご準備下さい。

17	サーモス(テルモス)	1個	○	夜間や行動中に温かいものが飲めるため、容量500ml程度のものが最低1個あると便利です。
18	行動食&ドリンク	適量	○	エナジージェル、エナジーバー、柿の種などの高カロリー行動食の他、緑茶、コーヒー、ココア、紅茶、味噌汁などの粉末など。日本で食べ慣れた、飲み慣れたものをご持参頂くのも良いでしょう。甘いものしょっぱいものなどバリエーションを豊かにすると飽きもこずおすすめです。ただし、最大でも総重量1.5kgぐらいには収めて下さい。 ★アメリカへは、肉製品の他、肉エキス、乾燥肉などを使用したインスタント食品の持ち込みも不可となりますのでご注意ください。
19	日焼け止め	2個	○	SPF50またはそれ以上。小さいものを2個くらい。日焼け止めは、6ヶ月以上たつとSPF値が半分に落ちるので、新しいものを用意すること。
20	リップクリーム	2個	○	最低でもSPF20/PA++以上のものを、新品で少なくとも2本。
21	ピーボトル	1個	○	尿瓶。1~1.5lくらいの容量で、口の広いもの。しるしを付けて水用の水筒とはっきり見分けがつくようにしておくこと。ナルゲンボトルなども可。 例)nalgen: 通常のナルゲンボトルの他、フォールディングカンティーンがおすすめ
22	ナイフ	1個	△	小型のアーミーナイフ。ヴィクトリノックスなどのシンプルで軽量なもの。
23	ライター	1個	○	BICなどの着火石タイプのもの。 ★航空機への預け荷物での持ち込みも不可で、機内持ち込み荷物としても空港により没収となるため、現地到着後に購入となります。
24	医薬品	適量	○	個人用の小さなパック。消炎鎮痛剤(イブプロフェン) x 20錠、解熱鎮痛剤(タイレノール・アセトアミノフェン) x 20錠、風邪薬、防水のバンソウコウ、テーピングテープ、靴擦れ時のジェルパッドなどの他、常用薬がある場合は常用薬も忘れずに。 ★常用薬がある場合は、悪天候などに備え、最低2週間分は余分にお持ち下さい。
25	カイロ	適数	△	登頂時の冷え込み対策に。 つま先、手袋の中に入る小型の寒冷地用タイプのもを各3組ずつほど。
26	耳栓	1組	△	より快適な睡眠のために。
27	トイレトペーパー	2個	○	2ロール。普段ウォシュレットを使用されているかは、サニーナスプレーなどもあわせてお持ち頂くことをおすすめいたします。
28	ポケットティッシュ	適数	○	トイレトペーパーでの代用も可能ですが、2、3個はお持ち頂くと良いでしょう。
29	ハンドクリーナー	適量	○	手指の消毒用に小型のアルコール消毒ハンドジェルなど。
30	洗面用具	適数	○	基本的なもの。歯ブラシ、歯磨き粉、ウェットティッシュ、タオルなど。
31	ジップロック	適数	△	テント内などでご自身が出したゴミなどを快適にまとめるためにもあると便利です。
32	カメラ	1個	○	携帯端末、デジタルカメラなどのリチウムイオンバッテリーは、低温下でのバッテリー消費がとても激しいのでご注意ください。
33	キンドルや文庫本	適数	△	悪天候時などの停滞中の時間つぶし用に。 ※軽量で電池の持ちも良く、沢山の量を保存できるためキンドルは便利です。
34	筆記用具	適数	○	鉛筆、メモ帳など。(ボールペンは高所では出が悪くなる場合がございます)
35	旅行用衣類	適数	○	登山の前後にアンカレッジやタルキートナの街で着る衣類。

○ : 必要装備品 △ : 推奨装備品(あると便利です)

★ 紛失などを避けるため、原則、持参される全ての個人装備品にローマ字綴りで名前を明記して下さい。

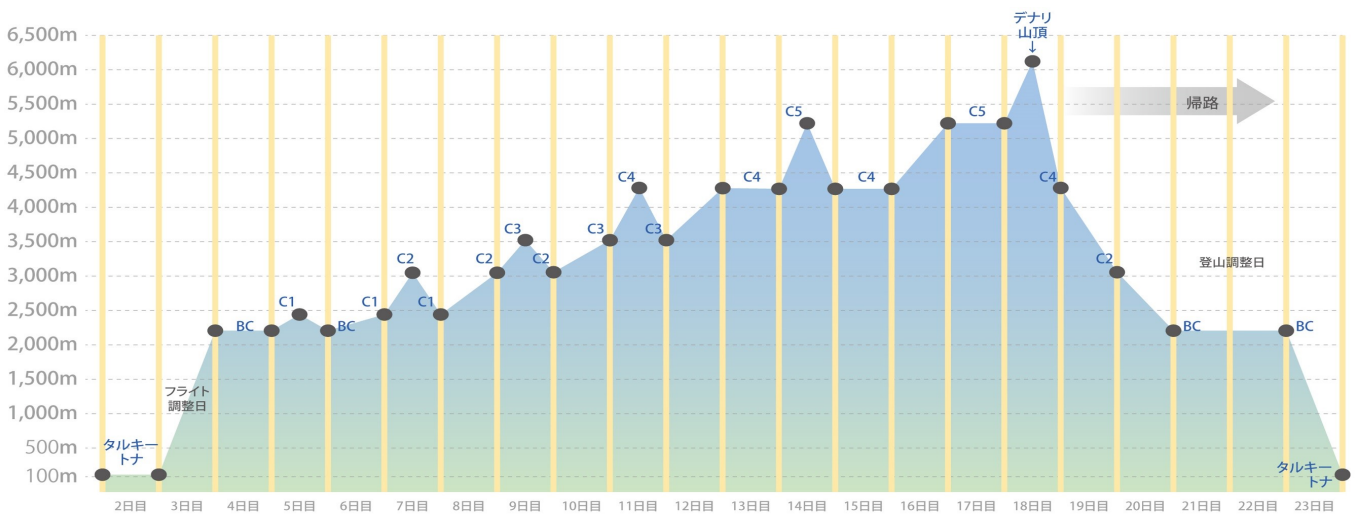
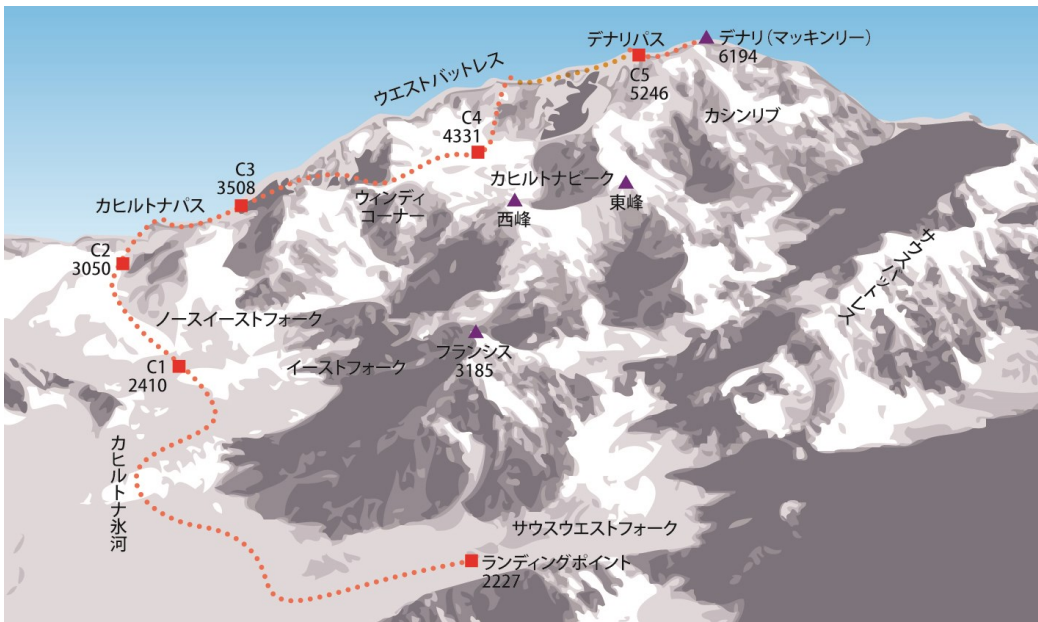
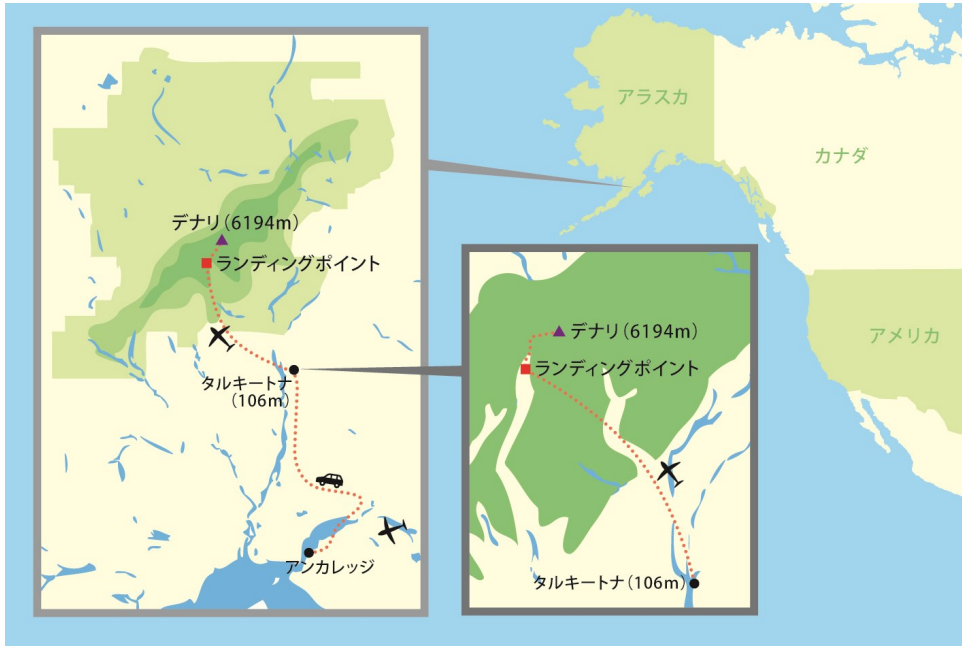
★ RNT欄の「〃RNT〃は現地にて無料レンタルあり」、「\$」は現地にて有料レンタルあり」をそれぞれ意味します。

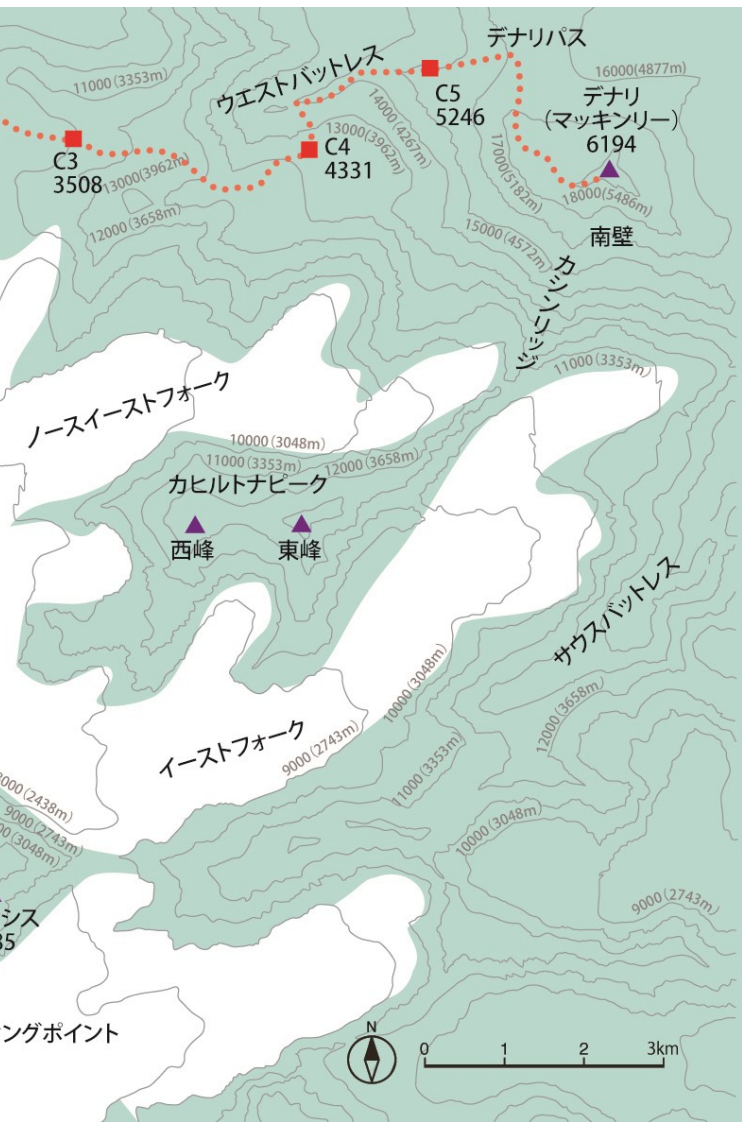
★ カラビナ、他ギアなどは、ソリを使いやすくするためのもの、クレバスレスキューの際に必要なものなど、多岐にわたります。ご自身でお持ちの使い慣れたギア類を最大限に生かすために、現地まではお持ちのギア類をいろいろとご持参頂き、タルキートナでのガイドのギアチェックの際に必要な物を取捨選択してもらい、山中に持ち込む方法がベストだと思われます。

※ 上記装備表はアラスカマウンテニアリング社の英文参考装備表を基に作成した参考装備表です。

絶対的なものではありませんので、各自、上記のリストを参考に悪天候にも対応できるようご自身に合った装備をご準備下さい。

デナリ登山ルート 概念図





パークレンジャーオフィスにてブリーフィング



ランディングポイント



大量の食料と装備を運びます



荷上げの日々が続きます



一日中明るいマッキンリー登山

テントは防風のためにウォールをつくれます



特別なコンティニアスの技術を使って行動します



ウェストバットレスへのフィックスの登り



クレバスと雪庇に気をつけ、山頂までリッジを辿る



ウェストバットレスのリッジでの行動



マッキンリー山頂。狭い雪のピークです

山頂への行動はかなりの寒さとなります

